地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選 その26

文：田崎 敬修（たかのぶ）さん

野沢の名勝地　雷山公園

雷山公園は野沢の街並みと飯豊山などが一望でき、町民から永く親しまれてきました。古くは中世の館跡で「羽黒山館」と呼ばれ、昔、羽黒権現のお堂があったことが館名の由来と思われます。公園は館の主郭中心部で周囲に曲輪（くるわ）・土塁（どるい）・堀跡などが残っています。館主と伝わる石川冠者は、南北朝時代の動乱期の建武３年（1336）、足利尊氏に味方した功績により野沢村半分を賜ったという石川郡石川氏の一族小平七郎三郎光俊ではないかと考えられており、こちらでは元の石川姓を名乗ったのでしょう。石川冠者のその後は定かでありませんが、野沢六人衆の一人石川平太夫が子孫と伝えられています。

↑享和３年の雷神祠（ほこら）

ここは昔から落雷が多い場所だったようで、「施主石河三之助　石川善四郎」の刻字がある享和３年（1803）建立の雷神祠があります。山本定平著『旧記書』には「羽黒山雷神祠は、私が少年の頃たびたび激しい雷があり、享和の頃もこのような迅雷があったのであろうか。野沢南町分の石川三之助・善四郎両人が世話人となって新たに石祠を建ててお祭りをした。それ以来、大雷はなくなったので……以下略」（現代語訳）とあり、「雷山」の名はどうやら落雷の名所に由来したようです。

↑額堂（がくどう）（東屋）

このほか、元帥侯爵山県有朋書の日露戦役記念碑等の石碑、杉之木覚碑や明治の当地俳人たちが野沢の里十景を詠んで掲額した「額堂」と呼ばれた東屋があります。句額は全て焼失され、今は見る影もないのは残念です。　参考文献：『西会津史談　第５・７号』『西会津町史　第２巻』

今月の表紙

表紙は5月12日に新郷戸中平で開かれた「菜の花まつり」より。菜の花と青空を背景に、トランペットの演奏会が行われました。（4ページに関連記事）

編集後記

毎月区長さんを通し、皆さんへお送りしている広報紙。実は町外にも発送しています。各関係機関のほか、町外に在住で購読を希望される方へも送付しており、今年度も多くの方から継続の申込を頂きました。申込書の通信欄には、町の様子が分かり懐かしい、帰省できないので故郷のニュースをいつも楽しみにしています、など、温かい言葉が並んでおり、励まされています。ありがたい限りです。今後も町内外の皆さんに季節ごとの話題をお届けし、町を身近に感じてもらえれば幸いです。来月は小学校の運動会などをお届けできそうです。お楽しみに。購読の申込も随時受付中です。ぜひ！（大堀）

Nishiaizu

広報にしあいづ №728　令和元年６月号
発行／福島県西会津町　編集／企画情報課　TEL 0241-45-2211（代表）
ホームページ　https://www.town.nishiaizu.fukushima.jp/

PRINTED WITH SOY INK
この広報紙は、環境に優しい大豆油インキを使用しています。